

上越市における土砂災害警戒区域等の指定状況  
(2018.6.25現在、単位：箇所)

警戒区域等の指定状況	種別内訳						
	全体		急傾斜		土石流		地すべり
	特別	特別	特別	特別			
上越	277	166	143	120	93	46	41
安塚	262	158	133	123	70	35	59
浦川原	231	126	115	99	69	27	47
大島	160	87	91	68	35	19	34
牧	192	101	111	88	23	13	58
柿崎	198	133	119	102	62	31	17
大湊	2	2	2	2	0	0	0
頸城	41	26	23	22	18	4	0
吉川	159	89	86	71	49	18	24
中郷	8	3	7	3	1	0	0
板倉	103	51	35	24	34	27	34
清里	47	19	17	14	15	5	15
三和	37	23	15	14	15	9	7
名立	111	58	44	40	44	18	23
計	1828	1042	941	790	528	252	359



浦川原区東俣での地すべり (2012年4月)

# 土砂災害は大きな危険のひとつ。ハード面を含め本格的な対策を！ 災害対策特別委員会が土砂災害対策などで所管事務調査

上越市における土砂災害警戒区域等の調査が終わり、24日の市議会災害対策特別委員会で調査結果が明らかにされました。

左表をのぞらんで下さい。旧東頸城や旧中頸城の山間部で指定箇所が多いことがよくわかります。警戒区域に指定された所は全体で1828箇所です。このうち、「住民の生命または身体に著しい危害が生ずる恐れがある」特別警戒区域は1042箇所にものぼります。

説明後の質疑で私は、「急傾斜地、

土石流、地すべりの危険個所の整備状況はどうなっているか」と質問。これに対して担当課長は、「急傾斜地が8.4%、土石流は24.6%、地すべり42.4%となっている」と答えました。これらの数値は4年前に私が質問したときの数値とほとんど変わっていません。

私は、「市民にとって、土砂災害は大きな危険の一つ。それに行政が立ち向かっていく姿勢が重要だ。土砂災害についてはハード面も含めて本格的な対策を国に求めるべきだ」と訴えました。担当部長は、「私も精一杯要望していきたい」と答えました。

この点では、内山前議長も「行政だけでなく、議会も一緒になって国に働きかけていこう」と提案しました。この提案はぜひ具体化したいものです。

私は、「市民にとって、土砂災害は大きな危険の一つ。それに行政が立ち向かっていく姿勢が重要だ。土砂災害についてはハード面も含めて本格的な対策を国に求めるべきだ」と訴えました。担当部長は、「私も精一杯要望していきたい」と答えました。

市の担当課によると、上越市としては、これまでどおりの場所分散配備を認めるよう要請してきたが、県はP A Z外のすべての住民分は、各地域の保健所等に一時的に配備し、分散配備や住民への配布方法を検討することにしているとして、譲らなかつたということでした。私は、「これではいざというときに間に合わない。住民は（安定ヨウ素剤が）身近にあるということに安心感を持ってきた。早急に県に働きかけておいてもらいたい」と訴えました。防災危機管理部長は、「我々



【ミソカクシ】キキョウ科の多年草。漢字で「溝隠」と書きます。別名は「アゼムシロ」。田んぼの畦、農道などにたくさんあります。花は6～10月に咲きます。吉川区下中条にて撮影。

## 安定ヨウ素剤、分散配備から保健所一か所配備に

原子力災害対策では新たな事実が判明しました。本年2月下旬、市独自に購入した安定ヨウ素剤が使用期限を迎えるなかで、県の安定ヨウ素剤の配布・服用体制にどう対応したというのです。その結果、合併時からこれまで市内10か所で分散配備されていたの



【写真は安定ヨウ素剤、14年5月撮影】

は指をくわえていたわけではなない。県には強く要求していきたくて答えました。

# はしづめ法一の活動レポート

**No.1868 2018.7.29**  
発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず  
Tel 025-548-3628  
通じないときは 090-5392-1961  
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp  
URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら  
橋爪法一 検索



# 春よ来い

## 第五一六回

### へり食わんがねかな

猛暑が続いています。母が眼科へ行くことになって先日も朝から気温が急上昇しました。通院日でなかったなら外には出たくなかったですね。それほど暑かった。

眼科はいつもなら、遅くとも午前10時に予約がとれました。この日は母の都合で予約を変更したこともあって、予約の時間は午前一時。少しでも早く診てもらいたいという思いがあつて、一〇時半頃には病院に到着しました。

眼科の待合場所はほぼ満席、私は母と離れたところで座らざるをえませんでした。最初はスマートフォンを操作して時間つぶしをしていましたが、そのうちに眠気が強くなつてきて、うとうとしました。

一回目の検査が終わったのは一二時近くだったと思います。待合室では、やつと母と並んで座ることができました。そこへ同じ区内に住むハツエさんが診察を終えて嫁さんとともに歩いて来られました。九〇を超えているというのにじつにしっかりと足取りです。ハツエさんは私の顔を見るなり、「おまん、どつか悪いが」と尋ねてきました。私は、「なして、ばちやだわね」と言いました。

いつもは一回でしたが、この日の検査は二回あり、検査がすべて終了したのは午後一時過ぎでした。そのときです、診察室の前のイスに座って、じつと壁の上部を見つめていた母が「まだ、へり食わんがねかな」と、ぼそっとつぶやいたのは……。

この言葉を聞いた瞬間、「えっ」と思いました。私も母も眼科にずっといたのですから、お昼を食べる余裕などまったくありません。そうしたなかで、なんでこんなことを聞くのだろう、母は自分が食べたかどうかを判断できなくなつてしまったのだろうかかと心配になりました。

親の発する言葉に「えっ」と思ったのは今回が初めてではありませんでした。十数年前に牛舎の脇で夕日を見ていた父が、「おーい、とちや、早く来てみる」と言つたときもそうでした。

そのとき、父の視線の先ではオレンジ色の大きな太陽が杉林の中に沈もうとしていました。普段、そんなことを言われたことのない私は正直言つて戸惑いました。

昼食を食べたかどうかの確認を求める母の言葉に、私が「まだだよ」と答えると、母は再び口を開き、「腹、へつたな」と小さな声で言いました。

母はその後、私に「今度はほんとの眼医者か」とも聞いてきました。いま待つているのは三回目の検査のためなのか、それとも眼医者さんによる診察のためなのか、わからなくなつていたのでしよう。私が「そうだよ」と言うと、考え込む表情は消えて、母は普通の顔に戻りました。

母との短い会話が終わつてまもなく、診察室の戸が開いて、母の名前が呼ばれ、私も一緒に診察室に入りました。

この日の担当は若い女医さんでした。母は耳が遠いことを伝えると、母の耳元で、「エツさん、聞こえますか。左上を見てください」「はい、よろしいですよ」といった調子で声をかけてくださり、診察は無事終了しました。診察の結果、右目の瞼のところ「できもの」があることがわかつたほかは異常ありませんでした。

診察、会計などすべてが終わつたのは午後一時四五分。私は大急ぎで売店に入り、おにぎりとパンを購入しました。車の中で、三角形のおにぎり一個を母に渡すと、母はすぐに手に取り、子どものように黙々と食べ続けました。よほどお腹がすいていたのでしよう。

#### 土砂災害の危険性のある地域で懇談会

土砂災害危険箇所を抱える3町内会で先週、「橋爪法一を囲む会」を行いました。平良木前市議も同行しました。

会では私が市政報告をし、平良木前市議が挨拶、その後、懇談しました。

懇談では、「土砂災害の発生時に避難と言われても、避難所までいけるかどうかの問題だ」

「柏崎刈羽原発はいまどうなっているか」「再稼働反対だけでなく、エネルギーをどうするか積極的に案を示して運動をしてほしい」「要介護2の親をかかえているが、制度で要介護3にならないと特養に入れられない。他の施設に入れるお金がなく困っている」「少子化対策の決め手はないのか。このままでは地域の維持が出来なくなる」などの声が寄せられました。



#### 上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

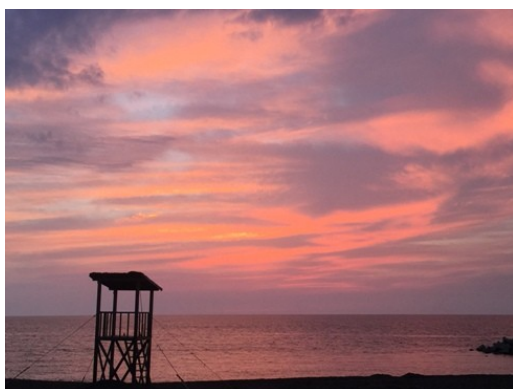
消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月18日(水)	7月25日(水)
上越南消防署	0.047	0.043
上越北消防署	0.043	0.047
新井消防署	0.040	0.047
頸北消防署	0.047	0.050
頸南消防署	0.063	0.060
東頸消防署	0.043	0.040
高士分遣所	0.047	0.050
名立分遣所	0.047	0.047

#### 朗読コンサートへ行ってきました

高田のオーレンプラザで21日に行われた朗読コンサート、「朝やけまつり」に参加してきました。

私たちが住む上越には妙高山、米



山などの山があり、海がある。この日、日が昇り、日が沈んでいく。この日の朗読コンサートは日々の暮らしの中でなかなか気づかない魅力やドラマが上越にもいっぱいあることを教えてくれました。児童文学作家、杉みき子さんの洗練された言葉で紡がれたものがたりがスクリーンの挿絵とピアノの曲をバックに朗読によって心地よく伝わってきました。コンサートが終わったら、久しぶりに海を見たくまりました。写真は柿崎海岸で21日撮影。